

国際英語学部 国際英語学科 【教育課程の編成・実施方針】

国際英語学部国際英語学科では、学位授与の方針で示した「学習成果」を実現するため、以下に示す教育課程を編成し、実施していくこととします。

国際英語キャリア専攻

〈国際英語キャリア専攻の教育目的〉

言語に対する体系的理解と高度な英語運用能力を基盤とし、国際ビジネスや教育の分野で必要となる知識や技術を獲得させることで、国際社会のあらゆる局面に対応できる人材育成を目的とする。

〈教育課程の編成と特色（国際英語キャリア専攻）〉

国際英語キャリア専攻の教育課程は、一般教養科目である全学共通科目と専門科目である学部（専攻）固有科目から構成される。

〈専門教育課程の構成〉

1. 学部固有科目の卒業要件単位は 84 単位であり、履修方法に基づく科目区分によって以下の科目群に分けられる。

① 必修科目(42 単位)はその主たる学習目標に従って以下のように分類される。

A. 英語運用能力の向上を目的とする科目群

Oral Communication I～VI、Academic Writing I～IV、Reading I・II、英文電子文書作成 I～IV、海外基礎研修

B. 英語や言葉に対する体系的理解を深めることを目的とする科目群

国際英語入門、英語学概説 I、言語システム論 I、国際英語キャリア入門演習 I・II、国際英語キャリア演習 I～VI

C. 国際ビジネスや教育等に応用できる知識や技術を獲得することを目的とする科目
国際キャリア・ディベロップメント

必修科目においては、英語運用の 4 技能を万遍なく向上させるため当該の科目を配置するとともに、言語の体系的理解や、職業的能力の向上の基礎となる科目を配置している。特に、1 年次に海外研修を必修化し、英語運用の実際や国際ビジネス等の現状を理解することによって、その後の学修への方向性を確立させるとともに、それへ向けての取り組みを加速させている。

② 選択必修科目(32 単位)はその主たる学習目標に従って以下のように分類される。

A. 英語運用能力の向上を目的とする科目群

Presentation I～IV、Reading III・IV、Advanced Discussion I・II

B. 英語や言葉に対する体系的理解を深めることを目的とする科目群

実用英語運用法 I・II、英語音声学 I・II、英語学概説 II、語形成論、英語の歴

史 I・II、国際社会言語学 I・II、英語コミュニケーション論 I・II、ことばの意味、言語学外書講読 I・II、Language Variation、Language and Culture、言語システム論 II、海外研修 A~C、交換留学、セメスター留学

- C. 国際ビジネスや教育等に应用できる知識や技術を獲得することを目的とする科目
英語資格 I~III、ビジネス英語資格 I~III、ビジネス翻訳実務 I・II、翻訳と IT I・II、通訳演習 I・II、国際言語管理、ビジネスとアジア英語、New Management Trends、Global Economic Trends、英語科教育法 I・II、早期英語習得論 I・II、海外業務体験

選択必修科目群においては、必修科目で獲得した、技術的・学問的基盤に基づいて、主体的に科目を選択しつつ、英語運用能力を高度化し、言葉に対する体系的理解をさらに深め、国際的なあらゆる局面に即応できる知識を蓄えることが可能となる科目を配置している。とりわけ、海外研修を選択必修とし、結果として、卒業までに最低 2 回の海外研修を課している。これにより、高度な英語運用能力を確かなものとするとともに、職業人としての活躍の場を当然のこととして世界に求める意識を浸透させている。

2. 国際英語キャリア専攻では、学生の進路や関心に応じて、3つの履修モデルを提示している。

- ① ビジネスキャリアを目指す学生の履修例：この履修例では、演習や講義等の授業の他、海外研修などでの現場体験を通じて、高い英語力を身につけ、その高い英語力を駆使して企業や公的機関で国際的に活躍できる人材の育成を目的とする。
- ② 言語研究者や英語教育専門家を目指す学生の履修例：この履修例では、言語に関する幅広い内容の講義・演習・実習を通じて、英語教員、英語教育研究者・言語研究者の志望者を、理論と実践の両面から育成することを目的とする。
- ③ 通訳者や翻訳者としての専門的活動を目指す学生の履修例：この履修例では、高度な英語運用能力を身につけさせるとともに、海外研修を含む幅広い科目を履修させることによって、通訳者や翻訳者としてフリーランスでも活躍できる人材の育成を目指す。

3. 国際英語キャリア専攻固有科目の特色

国際英語キャリア専攻では高度の英語運用能力と言葉に対する体系的理解を基盤として、国際舞台に即応できる知識を活用して活躍する国際人の育成を目指している。その専門科目として、英語運用能力、言語科学、キャリア関連の科目を重厚に配置している。さらに、海外研修を 2 回義務付けることにより、獲得した知識や技術を机上のものにすることなく活用できるまで浸透させている。

また、ゼミ指導を 1 年次から開始するとともに、ネイティブ教員と日本人教員の共同授業や、上級生によるチュートリアル等を通じて、授業外でも学生の主体的学びを支援する仕組みを整えており、それらを支える施設（PC 教室、自習室等）も完備している。

その一方で、科目群の中での選択に幅を持たせることによって、目的を見失うこと

なく、自律的に履修ができるカリキュラムとなっており、生涯にわたるキャリア・ディベロップメントを見据えることができる。選択必修の海外研修においても、1年間の交換留学から短期の研修まで選択できるようになっており、学生のニーズにあった選択が可能となっている。

4. 学習成果と科目との関係は以下のとおりである。

① 高度な専門的議論や公式文書の作成・翻訳などにも対応可能な高度な言語運用を行うことができる。

Oral Communication I～VI、Academic Writing I～IV、Reading I～IV、英文電子文書作成 I～IV、海外基礎研修、Presentation I～IV、Advanced Discussion I・II

② 言葉に対する体系的理解や論理思考力を有し、それらを言語使用に活用することができる。

国際英語入門、英語学概説 I・II、言語システム論 I・II、国際英語キャリア入門演習 I・II、国際英語キャリア演習 I～VI、実用英語運用法 I・II、英語音声学 I・II、語形成論、英語の歴史 I・II、国際社会言語学 I・II、英語コミュニケーション論 I・II、ことばの意味、言語学外書講読 I・II、Language Variation、Language and Culture、海外研修 A～C、交換留学、セメスター留学

③ 国際実務や教育に資する知識や技術を有し、それらをあらゆる活動の場に応用することができる。

国際キャリア・ディベロップメント、英語資格 I～III、ビジネス英語資格 I～III、ビジネス翻訳実務 I・II、翻訳と IT I・II、通訳演習 I・II、国際言語管理、ビジネスとアジア英語、New Management Trends、Global Economic Trends、英語科教育法 I・II、早期英語習得論 I・II、海外業務体験

英語圏文化専攻

〈英語圏文化専攻の教育目的〉

国際英語の理念に基づき、多様な価値観と文化を尊重し、それらに対する理解を深めることを通じて、英米のみならず英語を公用語とする英語圏の言語文化に関する広範な知識と、それに対する批判的な視点をも持つ国際的人材を育成することを目的とする。

〈教育課程の編成と特色（英語圏文化専攻）〉

英語圏文化専攻の教育課程は、一般教養科目である全学共通科目と専門科目である学部（専攻）固有科目から構成される。

〈専門教育課程の構成〉

1. 学部固有科目の卒業要件単位は 84 単位であり、英語圏文化専攻では、履修区分に応じて以下の科目群に分けられる。

① 必修科目(44 単位)は、学習目標に従って以下のように分類される。

A. 学士(国際英語学)にふさわしい知見を獲得し、進路の手引きとなる科目群
国際英語入門、国際キャリア・ディベロップメント

B. 英語運用能力の向上を目的とする科目群

Oral Communication I～IV、Academic Writing I～IV、Reading I～IV、Presentation I～IV、英文電子文書作成 I～IV

C. 英語圏文化の体系的理解を深めるべく、入門から卒業論文作成まで運営する演習科目群

英語圏文化入門演習 I・II、英語圏文化演習 I～VI

D. 基礎力をつけた 3 年次にさらに応用・発信型の英語力向上をめざす科目群
Critical Reading I・II、English Project Workshop

② 選択必修科目(14 単位)は、学習目標に従って以下のように分類される。

A. 3 年次・4 年次に上級レベルの英語運用能力獲得を目的とする科目群
Professional English I～IV、Professional Writing I・II

B. 英語圏文化について、地域区分により体系的に知識を獲得する科目群

イギリス研究入門・イギリス研究、アメリカ研究入門・アメリカ研究、英語圏研究入門・英語圏研究、イギリス文学 A・B、アメリカ文学 A・B、英語圏文学 A・B

C. 座学を越えた体験学習の機会を与える海外研修科目群

交換留学、 Semester 留学、海外大学研修、海外セミナー I・II（語学＋ビジネス研修）

③ 選択科目（26 単位）は、英語圏文化について幅広く学ぶべく多岐にわたり展開している。

A. 英語による講義科目として、American Social History、British Social History、History of Cultural Exchanges I・II、Media Literacy I・II、

Women's History、Current Topics I・II を開講。

B. 教員の免許状取得のための選択科目としては、英語科教育法 I・II、特に「英米文学」に関しては、比較文学論、批評理論、エンターテインメント文芸、演劇文化論を指定している。

C. 現代的な問題意識とニーズに応えるべく、音楽文化論、映画文化論、現代文化論、児童文化論を開講。

D. 英語発信力を高めるIntensive Workshop I・IIを開講。

英語圏文化専攻開講科目の特徴として、英語による講義科目・上級生向け英語を、中京大学への海外からの交換留学生在が参加する授業とし、専攻生にとっても貴重な体験機会にする。

2. 英語圏文化専攻では、学生の進路や関心に応じて、3つの履修モデルを提示している。

①教員の免許状取得を目指す学生の履修例：英語圏文化専攻が開講する講義・演習・実習により英語教員として英語の本流を学び、文化的素養を身につける。さらに他専攻が開講する英語学系科目・異文化理解系科目を選択科目として修得するので、「教科に関する科目」については卒業要件範囲内で修得可能となっている。

②文化研究を目指す学生の履修例：英語力を培った上に、多彩な文化研究科目を興味・関心に沿い選択履修し、豊かな教養人として社会で活躍の場を見つけ、あるいは、大学院に進学し研究を続ける。

③文化交流とビジネスを目指す学生の履修例：培った英語力と文化的素養をビジネスに結びつけることを目指す。他専攻開講科目や国内企業インターンシップなどを積極的に活用し、社会のニーズに応じていく。

3. 英語圏文化専攻固有科目の特色

英語圏文化専攻では高度の英語運用能力と背景となる文化に対する広範な理解を基盤として活躍する国際的な教養人を育成する。講義科目のおよそ半数がネイティブ教員による英語による授業である。また、ネイティブ教員と日本人教員が連携し1年次の演習を展開する。Semesterごとにネイティブ教員と日本人教員が相互的に乗り入れるような授業形態を2年次演習などで構築している。英語力増強については、4年次卒業まで持続して授業を運営している。文化研究関連科目も1年次から継続的に修得できるプログラムとなっている。

放課後を利用した先輩学生やネイティブ教員との交流アクティビティを支える施設・設備も整えている。海外研修については、学生にとって馴染み深い英国と北米の二地域を中心に期間は長期・中期・短期を提供する。

4. 学習成果と科目との関係は以下のとおりである。

①総合的な英語運用能力を身につけ、海外研修を実地訓練とする。

Oral Communication I～IV、Academic Writing I～IV、Reading I～IV、英文電子文書作成 I～IV、Presentation I～IV、Professional English I～IV、Professional Writing I・II、交換留学、セメスター留学、海外大学研修、海外セミナー I・II など。

② 英語圏文化に対する理解を通じて、様々な価値観を学び、異文化に対する敬意を養う。

国際英語入門、イギリス研究入門・イギリス研究、アメリカ研究入門・アメリカ研究、英語圏研究入門・英語圏研究、イギリス文学A・B、アメリカ文学A・B、英語圏文学A・B、American Social History、British Social History、History of Cultural Exchanges I・II、Media Literacy I・II、Women's History、Current Topics I・II、比較文学論、批評理論、エンターテインメント文芸、演劇文化論、音楽文化論、映画文化論、現代文化論、児童文化論など。

③自ら研究テーマを設定し、独自の視点から分析調査し、それに基づいて自身の議論を構築し展開する。

英語圏文化入門演習 I・II、英語圏文化演習 I～VI、国際キャリア・ディベロップメント、Critical Reading I・II、Intensive Workshop I・II、English Project Workshop など。

国際学専攻

〈国際学専攻の教育目的〉

世界中の英語変種を認め合うという国際英語の視点にたち、広く世界の社会・文化・思想・宗教をふまえた英語コミュニケーション能力の育成をおこなう。あわせて、コンピュータや時事問題の知識など、ビジネスに応用できる汎用性のある知識・技能を涵養し、英語運用能力と国際的視野をあわせ持つ世界に通じる教養人・職業人を養成する。さらに、英語圏だけでなく新興国における研修を通して、語学力、職業上の専門知識、および異文化適応力の養成を目的とする。

〈教育課程の編成と特色（国際学専攻）〉

国際学専攻の教育課程は、一般教養科目である全学共通科目と専門科目である学部（専攻）固有科目から構成される。

〈専門教育課程の構成〉

1. 学部固有科目の卒業要件単位は 84 単位であり、国際学専攻では、履修区分に応じて以下の科目群に分けられる。

① 必修科目(32 単位)は、学習目標に従って以下のように分類される。

A. 学士（国際英語学）にふさわしい知見を獲得し、進路の手引きとなる科目群

国際英語入門、国際キャリア・ディベロップメント

B. 基礎的英語運用能力の向上を目的とする科目群

Oral Communication I・II、Academic Writing I・II、英文電子文書作成 I・II、
発音ワークショップ

C. 国際学研究科目群

英語資格入門、国際関係史、世界の宗教と思想 I

D. 戦略的コミュニケーション科目群

言語技術と論理的思考

E. 国際学の体系的理解を深めるべく、2 年次から 4 年次まで運営する演習科目群

国際学演習 I～VI

② 選択必修科目(32 単位)は、学習目標に従って以下のように分類される。

A. 国際学研究科目群

イギリス研究入門、アメリカ研究入門、英語圏研究入門、比較文化論、異文化理解、
国際経済学、アジア研究、世界と日本、国際ビジネス論 I・II、ホスピタリティ論、
マーケティング論

B. 英語資格講座科目群

TOEIC 600、TOEIC 800、TOEIC 1000、TOEIC 1200、TOEFL 80、TOEFL 100

C. 戦略的コミュニケーション科目群

Argument & Persuasion, Explanation, Troubleshooting, Workplace English, Advanced IT Literacy, Presentation Skills, Essay Writing, Advanced English

D. 職業体験科目群

海外業界研究 I～VI、総合実践英語、ICTと言語教育、ICTとビジネス、短期研修、交換留学、セメスター留学

③選択科目（20単位）は、国際学について幅広く学ぶべく多岐にわたり展開している。

A. 国際学専攻開講科目の特徴として、選択科目には主に国際ビジネス関連の科目、また日本語教授法など国際社会で実際に働くことを想定した諸科目を配している。

航空ビジネス論、国際情報と企業戦略、国内企業インターンシップ、国際地域研究入門、世界の宗教と思想Ⅱ、日本語教授法Ⅰ・Ⅱ、日本語教育実習Ⅰ・Ⅱ、

B. 教員免許状取得のための選択科目としては、英語科教育法Ⅰ・Ⅱ、Rhythm & Intonation、Grammar & Vocabulary、Reading Strategies、Paragraph Writing、他専攻開講の英語学関連、英米文学関連の科目が履修できる。

C. その他、他専攻開講科目の一部を履修できる。

2. 国際学専攻では、学生の進路や関心に応じて、3つの履修モデルを提示している。

①交換留学を重視する履修例：2年次秋学期から3年次春学期のISEP留学を中心に国際社会理解関連、国際コミュニケーション関連の諸科目を履修の根幹に据える。

②職業体験を重視する履修例：国際的に活躍できるビジネス・パーソンを目指す学生が、カリキュラム内で海外職業体験ができる。その体験とビジネス関連の諸科目を履修の根幹に据える。

③教員免許状取得を目指す学生の履修例：国際学専攻が開講する講義・演習・実習により英語教員としての基礎英語力・教養を身に付ける。さらに他専攻が開講する英語学系科目・英文学系科目を選択科目として修得できるので、卒業要件範囲内で教科専門科目が修得可能となっている。

3. 国際学専攻固有科目の特色

国際学専攻の英語名 Information Technology & International Studies(IT & IS)が表すように、国際学専攻では英語でIT関連のスキルと国際社会・政治・経済・文化について学習する科目がカリキュラムの根幹を形成している。

国際学専攻のカリキュラムで特徴的なのは、実践的な英語授業や日本語と英語で実施される講義に豊富な選択科目を揃え、学生ひとりひとりが自分の興味・関心そして意欲によって、自主的に学びを組み立てられることである。

海外研修・海外業界研究については、3専攻中最も多様な英語使用環境を体験できる研修・研究を揃えている。研修・研究先としては英語を母語とする英国・北米・オセアニア

諸国、公用語としているシンガポール・インド、そして外国語として学習している韓国等。期間は長期・中期・短期を提供する。

4. 学習成果と科目との関係は以下のとおりである。

①国際学研究科目群

外国語系専攻で一般的な人文系科目以外に、国際関係論や地域研究等の社会科学系科目が多く開講されているので、国際社会で通用する複眼的視点や論理的思考力を身につけることができる。

②英語資格講座科目群

学習目的と到達目標が明確な英語科目が1年次から2年次にかけて集中的に配置されているので、能率的な英語学習ができ、ひいては、多くの学生が海外留学の選考に合格できる。英語力の到達目標は、2年次春学期終了時に TOEIC LR で 730 点、TOEIC SW で 280 点、TOEFL iBT で 80 点、卒業時には TOEIC LR で 900 点、TOEIC SW で 340 点、TOEFL iBT で 100 点とする。

③戦略的コミュニケーション科目群

海外を含む学内外での学習や活動を通じて、すべての職業において生涯にわたって有効な、語学力・文章力・ICT スキル・情報収集力・分析力・論理的思考力・異文化適応性・柔軟性・協調性を身につけることができる。

④自ら研究テーマを設定し、独自の視点から分析調査し、それに基づいて自身の議論を構築し展開する。

国際学演習 I～VI、 国際キャリア・ディベロップメントなど。

国際英語学部 国際英語学科【教育課程の編成・実施方針】

国際英語学部国際英語学科では、学位授与の方針で示した「学習成果」を実現するため、以下に示す教育課程を編成し、実施していくこととします。

<国際英語学部国際英語学科の教育目的>

国際英語の理念に基づき、英語圏及び非英語圏の言語文化社会に関する知識、並びに、現代の国際化する企業・団体等で求められる多様な専門知識や技術を獲得させることに加え、英語圏・非英語圏を横断する高度な英語力を身に付けさせることで、世界に通じる国際人の養成を目的とする。

<教育課程の編成と特色>

国際英語学部国際英語学科の教育課程は、一般教養科目である全学共通科目と専門科目である学部固有科目から構成される。

<専門教育課程の構成>

1. 学部固有科目の卒業要件単位は 74 単位であり、科目区分によって以下の科目群に分けられる。
 - ① 必修科目(46 単位)として、「オーラル・コミュニケーション I~V」、「プレゼンテーション I~V」、「コミュニケーション・ライティング I~IV」、「リーディング I~VI」、「ワークショップ I~II」、「英語情報処理演習 I~II」、「上級英語情報処理演習 I~II」、「国際英語学演習 I~VI」、「国際英語学概論 I~II」、「シンガポール研修」及び「国際キャリア・ディベロップメント」を配置し、総合的な英語力の養成、国際英語学の基礎知識の獲得、及び卒業後の職業意識の涵養を指導する。特に「シンガポール研修」では英語非母語圏での英語の実践的使用と海外体験を通じて、国際英語の理念の深化を図っている。
 - ② 選択必修科目(4 単位)として 2 年次に「アメリカ研修」、「オーストラリア研修」、「海外基礎研究」の科目を配し、英語圏での英語の実践的使用と海外体験を経験させている。3 年次には「ジャーナリズム I~II」、「アカデミック・ライティング I~II」、「クリエイティブ・ライティング I~II」を配置し、学生各自の関心に則って、英語での卒業論文作成や資料収集の基礎訓練を実施している。
 - ③ 選択科目(24 単位)は多岐にわたり、「国際地域研究科目群」、「コミュニケーション研究科目群」、「言語教育研究科目群」、「英語圏文学研究科目群」、「国際ビジネス研究科目群」、「海外大学交換講座群」、「演習実技科目群」、「司書科目群」、「海外研修科目群」、「実用科目群」に加えて教職課程の科目群など、大まかに 11 種類の科

目群がある。各科目群には複数の科目が配置され、合計 53 科目が開設されている。特筆すべきは、ビジネス関係の科目（「国際ビジネス論 I～II」、「航空ビジネス論」など）とインターンシップ系の科目（「海外業界研究 I～II」、「国内企業インターンシップ」）であり、本学科学生の職業意識の向上に寄与している。

2. 国際英語学部国際英語学科では、学生の興味と将来の進路に応じて、3つの履修モデルを提示している。

- ①国際ビジネスキャリアを目指す学生の履修例：この履修例では、演習や講義等の授業の他、海外企業でのインターンシップなどの現場体験を通じて、高い英語力を身につけ、その高い英語力を駆使して企業や公的機関で国際的に活躍できる人材の育成を目的とする。
- ②言語教育専門家を目指す学生の履修例：この履修例では、言語や文化に関する幅広い内容の講義・演習・実習を通じて、英語教員、国内外での日本語教師、英語教育研究者・言語研究者志望者を、理論と実践の両面から育成することを目的とする。
- ③国際交流支援者を目指す学生の履修：この履修例では、実学や文化に関する様々な講義・演習・実習を通じて、英語を駆使して世界の多様な機関で活躍できる人材、日本人として日本の事情を英語で発信できる人材の育成を目的とする。

3. 国際英語学科学部固有科目（専門科目）の特色

国際英語学部国際英語学科では、国際的に通用する英語力の養成、特に日本人として日本の情報を発信できる人材の育成を目標としている。そのスキル養成のため、1年次から3年次まで、15人程度の少人数クラスの英語演習科目を必修としている。一方、情報発信するためのコンテンツを学ぶために、2年次からゼミ（国際英語学演習）を導入し、広範囲で多くの講義科目や演習科目を開講している。3年生及び4年生のゼミ（国際英語学演習Ⅲ～Ⅵ）では、専任教員指導のもと、各教員の専門分野の研究をするのだが、日本人専任教員以外に外国人専任教員によるすべて英語によるゼミも選択可能である。

本学科の最も顕著な特徴は、海外研修の豊富さである。1年次必修の「シンガポール研修」は英語非母語圏で英語公用語圏あるシンガポールで、2年次選択必修の「アメリカ研修」、「オーストラリア研修」、「海外基礎研究」は英語母語圏で実施している。加えて、1年次～4年次までは英語圏を中心に職業体験ができる「海外業界研究 I～II」、「日本語教育実習 I～II」を開講し、学生の英語力と海外適応力を高める他、職業意識や勉学意識の向上にも寄与している。

もう一つの本学科の特徴は、ビジネス系・キャリア系の授業が多いことである。特に2年次春学期に「国際キャリア・ディベロップメント」を必修科目にして、学生の将来の職業意識を高めていることは特筆に値する。その他、「航空ビジネス論」や「観光学と英語」など企業の第一線で活躍した講師を招いての科目は、学科学生の職業意識を高め、

本学で常に一番争う就職率につながっていると思われる。

その他、学生の実力と意欲に応じて、単位認定制度を積極的に活用して、ISEP やセメスター留学等の長期留学も奨励し、毎年、全学で圧倒的に多い数十名もの学生を海外の大学へ送り出している。

また、英語科目とも連動させて、1～2年生は「学習発表会」、3年生は「研究発表会」という学生主体の学科行事を行っている。これら学科行事は、「学習発表会」では母校の恩師や父母、「研究発表会」では企業の方々を招いて、英語で研究発表を行う行事である。これら学生主体の行事では、英語学習以外に、調査研究能力、同級生や担当教員との協調性、学外者を招くことを通じての社会常識なども涵養している。

国際英語学部 英米文化学科【教育課程の編成・実施方針】

国際英語学部英米文化学科では、学位授与の方針で示した「学習成果」を実現するため、以下に示す教育課程を編成し、実施していくこととします。

<国際英語学部英米文化学科の教育目的>

国際英語の理念に基づき、多様な価値観と文化を尊重し、それらに対する理解を深めることを通じて、英米の言語文化に関する広範な知識と、それに対する批判的な視点を持つ国際的人材を育成することを目的とする。

<教育課程の編成と特色>

国際英語学部英米文化学科の教育課程は、全学共通カリキュラム科目及び専門科目である学部固有科目から構成される。

<専門教育課程の構成>

1. 学部固有科目の卒業要件単位は 72 単位であり、履修区分に応じて以下の科目群に分けられる。

- ① 必修科目(42 単位)として、「オーラル・コミュニケーション I~VIII」、「ベーシック・イングリッシュ・スキルズ IA」、「ベーシック・イングリッシュ・スキルズ IB」、「ベーシック・イングリッシュ・スキルズ IIA」、「ベーシック・イングリッシュ・スキルズ IIB」、「インターミディエイト・イングリッシュ・スキルズ IA」、「インターミディエイト・イングリッシュ・スキルズ IB」、「インターミディエイト・イングリッシュ・スキルズ IIA」、「インターミディエイト・イングリッシュ・スキルズ IIB」、「情報コミュニケーションと英語 I~IV」、「英文講読 I/II」、「英米文化現地研究」、「英米文化入門演習 I/II」及び「英米文化演習 I~VI」を配置し、総合的な英語力の涵養と英米圏の文化研究の実践法を指導する。
- ② 選択必修科目(10 単位)として「英語学概論 I/II」、「イギリス文学史 I/II」、「言語基礎 I/II」、「アメリカ文学史 I/II」、「イギリス文化」、「アメリカ文化」を配置し、学生は専門分野や各自の関心に則して当該科目から必要単位分を修得する。
- ③ 選択科目(20 単位)として、英語学分野に関するもの(「英語音声学 I/II」など)、英語圏文化に関するもの及び比較文研究に関するもの(「現代英語圏事情」、「文化交流史 I/II」)、現代表象文化に関するもの(「映画文化論 I/II」、「演劇文化論 I/II」、「現代文化論 I/II」、「メディア・リテラシー I/II」)及び英語圏文化実地研究に関するもの(「海外セミナー I/II」)など合計 48 科目が配置されている。

2. 国際英語学部英米文化学科では、自身の興味と将来の進路に応じて、以下の三つの履修コースを設定する。

(ア) 文化研究コースでは、その歴史、社会及び政治といった文化諸事象について深く学習することで、現代の複雑な文化事象を批判的に分析考察する知識と技術を習得し、広く国際社会に適応したゼネラリストたらしめる人のための履修モデルである。

(イ) 文学研究コースでは、英米圏に限らず広く英語圏の文学テキストを対象として、人間文化の歴史と営為を文献実証的に調査し検証する知識と技術を習得し、英語圏の文化、社会及び政治に関する実践的分析力を備えた職業人たらしめる人のための履修モデルである。

(ウ) 英語学研究コースでは、英語を入り口として、広く言語の歴史や構造及び社会との接点、及び英語の教育法及びその意義について深く学習することで、特に言語運用及び言語教育のプロフェッショナル(英語教員を含む)を目指す人のための履修モデルである。

3. 本学科専門教育科目の特色

国際英語学部英米文化学科では、英米の言語文化に関する広範な知識と、それに対する批判的な視点を持つ国際的人材の育成を目的としている。そのために、入門レベルから専門的研究に至る包括的な英米文化圏の知識と理解を促すため、文化研究関連科目群を4年間にわたって履修できるよう配置している。また初年時から学术研究のための実践的な英語力錬成を目的とした英語関連科目を充実させるとともに、学生の実力と意欲に応じて、「海外セミナー」を中心とした英語圏言語文化実地研究により、積極的な海外短期留学を奨励し、2012年度入学生からは2年次に修得する「英米文化現地研究」により一度は現地で学ぶこととなっている。併せてISEPを初めとする学内の短期・長期海外交換留学を援用し、学生の積極的な海外学習体験を促進してきた。

4. 学習成果と科目との関係は以下のとおりである。

① 「人間」、「社会」、「歴史」などを深く学ぶことで、教養を身につけ、社会人としての常識、倫理観を養う。(全学共通科目)

「哲学 A/B」、「倫理学 A/B」、「東洋史 A/B」、「西洋史 A/B」、「社会学 A/B」、「女性学 A/B」、「平和論 A/B」、「職業と社会」など。

② 異文化に対する理解を通じて、様々な価値観を学び、外国の文化に対する敬意を養う。

「異文化理解 I/II」、「現代英語圏事情」、「カレント・トピックス I/II」、「イギリス文化」、「アメリカ文化」、「文化交流史 I/II」、「比較文化論 I/II」、「英米現地文化研究」、「海外セミナー I/II」など。

- ③ 総合的な英語運用能力を駆使して、英語英文資料の読解調査を行い、かつそれに基づいて論文執筆やプレゼンテーションを行う。

「オーラル・コミュニケーションⅠ～Ⅷ」、「ベーシック・イングリッシュ・スキルズⅠA」、「ベーシック・イングリッシュ・スキルズⅠB」、「ベーシック・イングリッシュ・スキルズⅡA」、「ベーシック・イングリッシュ・スキルズⅡB」、「インターミディエイト・イングリッシュ・スキルズⅠA」、「インターミディエイト・イングリッシュ・スキルズⅠB」、「インターミディエイト・イングリッシュ・スキルズⅡA」、「インターミディエイト・イングリッシュ・スキルズⅡB」、「英文講読Ⅰ/Ⅱ」、「英米現地文化研究」など。

- ④ 英米の文化、文学、言語の特徴と歴史を文化相対主義的な観点から理解し説明することができる。

「英語学概論Ⅰ/Ⅱ」、「言語基礎Ⅰ/Ⅱ」、「イギリス文学史Ⅰ/Ⅱ」、「アメリカ文学史Ⅰ/Ⅱ」、「イギリス文化」、「アメリカ文化」、「英語の歴史Ⅰ/Ⅱ」、「英語の文法Ⅰ/Ⅱ」、「現代英語圏事情」、「英米現地文化研究」、「映画文化論Ⅰ/Ⅱ」、「演劇文化論Ⅰ/Ⅱ」、「現代文化論Ⅰ/Ⅱ」など。

- ⑤ 各種情報処理能力及び高度なメディア・リテラシーを身につけ、その能力と知識に基づいて自ら情報を整理・要約し発信することができる。

「メディア・リテラシーⅠ/Ⅱ」、「情報コミュニケーションと英語Ⅰ～Ⅳ」など。

- ⑥ 自ら研究テーマを設定し、それについての独自の視点から分析調査し、それに基づいて自身の議論を構築し展開することができる。

「英米文化入門演習Ⅰ/Ⅱ」、「英米文化演習Ⅰ～Ⅴ」、「英米文化演習Ⅵ」（卒業論文）など。